

ホンジュラス内政・外交（２０１０年６月）

概況

【内政】

- １日、最高裁において、セラヤ派の政治デモに参加した判事４名の解任が再確認された。
- ８日、ロボ大統領は、与党国民党国内に自分（ロ）を失脚させようとする動きがある旨発言し、検察及び国民党内から「軽率である」との批判が挙がった。
- 国連薬物犯罪事務所（UNODC）の「２０１０年世界薬物報告書」によれば、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルは、麻薬密輸で最も汚染された国であり、世界で最も殺人発生率が高く、その他の犯罪発生率も非常に高い。
- ２８日、政変発生一周年を記念し、セラヤ派によるデモ行進が国内各地で行われた。また、同日、国内の人権擁護団体は、５月に発足した真相究明委員会では政変に伴う人権侵害が十分に解明されないとして、“通称”「真相究明委員会」を別途発足させた。

【外交】

- ６日、マイアミを訪問中のロボ大統領は、ホンジュラスへの投資促進を目的とした会議「ホンジュラスの貿易と投資２０１０」に出席し、対ホンジュラス投資の利点についてアピールした。
- ７日、ＯＡＳ総会において、ホンジュラスのＯＡＳ復帰について検討するためハイレベル委員会の発足が決定した。

内政

１ 裁判官の解任問題（復職要請の否決）

１日に行われた最高裁判所判事による討議において、判事４名の解任が再確認された。同４名は、法律で禁じられているに関わらず政治的デモ（セラヤ派デモ）に参加したため解任されたが、前月２１日に解任の取り消しを最高裁判所に求めていた。

本件については、ロボ大統領及び国際社会の一部から、判事を復職させるよう圧力がかかっていた一方、反セラヤ派の市民団体等からは最高裁がこうした圧力に屈せず法律を守るよう要望が出されていた。同討議においては判事の解任問題のみが議題に上り、セラヤ元大統領の帰国問題については議論されなかった。

２ ロボ大統領の発言

８日、ロボ大統領は、グアイマカ市（フランシスコ・モラサン県。テグシガルパ市から東に５０Ｋｍ。）で行われた閣議終了後の報道取材に対し、「与党国民党国内に自分（ロ）を失脚させようとする動きがある」と述べた。さらに、指を３本立て、同関与者

が3人であることを暗に示した。

ロボ大統領の発言を巡っては、検察及び国民党内から「軽率である」との批判が挙げられた。

3 ホンジュラスの麻薬汚染

国連薬物犯罪事務所（UNODC）の「2010年世界薬物報告書（World Drug Report 2010）」によれば、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルは、麻薬密輸で最も汚染された国である。さらに、これら中米3カ国では、「世界で最も殺人発生率が高く、その他の犯罪発生率も非常に高い」としている。また、2003年から2005年の10万人あたりの殺人発生数は、ホンジュラスでは61人、エルサルバドルでは52人、グアテマラでは49人と格段に高くなっている。

4 人権委員会の設置

23日、ロボ大統領は立法・行政・司法のいずれにも属さず独自に業務を遂行する人権委員会を政府内に設置すると発表した。人権問題に関し、ロボ大統領はこれまでにヒネダ人権問題担当大統領補佐官を任命していたが、人権擁護団体や国際社会は、現在のホンジュラス人権侵害状況に鑑みヒネダ補佐官を支える組織の設置を求めている。

同委員会は、グアテマラにおける国家人権委員会をモデルとし、人権侵害調査に必要な独自の予算と人員が与えられる予定。

5 政変から一周年

（1）セラヤ派によるデモ行進

28日、政変発生一周年を記念し、①制憲議会の設置及び②セラヤ前大統領の帰国を求めてセラヤ派によるデモ行進が国内各地で行われた。テグシガルバにおいては、主催者側は当初10万人の参加を見込んでいたが、実際に参加したのは2000人程で、小規模デモに留まった。その他、サンペドロスーラ市（約3000人が参加）、エル・プログレッソ市、チョルテカ県等でセラヤ派によるデモが行われ、一部道路が占拠される等した。

（2）“通称”「真相究明委員会」の発足

28日、国内の人権擁護団体は、5月に発足した真相究明委員会では政変に伴う人権侵害が十分に解明されないとして、“通称”「真相究明委員会」を別途発足させた。同「委員会」は、政変に起因する人権侵害について、2011年6月までに最終報告書を作成する予定。なお、同発足式典には、シオマラ・セラヤ前大統領夫人が出席した。

同委員会構成員（10名）は以下のとおり。

（ア）ノラ・コルティーニャス「五月広場の祖母の会」創設者（亜）

（イ）ルイス・カルロス・ニエト判事（西）

- (ウ) アドルフォ・ペレス・エスキバル・ノーベル平和賞受賞者（亜）
- (エ) ミルナ・ペルラ・ヒメネス最高裁判事（エルサルバドル）
- (オ) クレイグ・スコット弁護士（加）
- (カ) エルシー・モンヘ・エクアドル人権擁護団体代表（エクアドル）
- (キ) フランソワ・アウタート司祭（ベルギー）
- (ク) フランシスコ・ホセ・アギラル弁護士（コスタリカ）
- (ケ) エレン・ウマーニャ大学教授（ホンジュラス）
- (コ) ファウスト・ミジャ司祭（ホンジュラス）

外交

1 ロボ大統領のマイアミ訪問

6日、マイアミを訪問中のロボ大統領は、ホンジュラスへの投資促進を目的とした会議「ホンジュラスの貿易と投資2010」（於：マイアミ。マイノリティ商工会議所（CCM；Camara de Comercio de las Minorias）主催。）に出席し、CCMに加盟する約300人の起業家に対して、法的安全性・観光・農牧業の3つの点から対ホンジュラス投資の利点についてアピールした。

2 OAS総会：ホンジュラスのOAS復帰を巡るハイレベル委員会設置

7日、OAS総会において、ホンジュラスのOAS復帰について検討するためハイレベル委員会を発足させることが決定した。同委員会は、遅くとも7月31日までにホンジュラスのOAS復帰の是非の判断材料となる調査結果を提出することとされた。